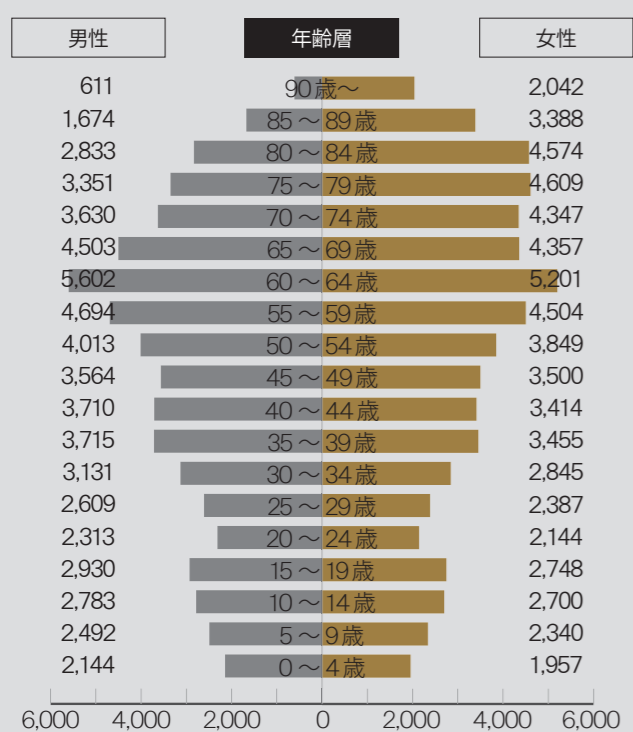


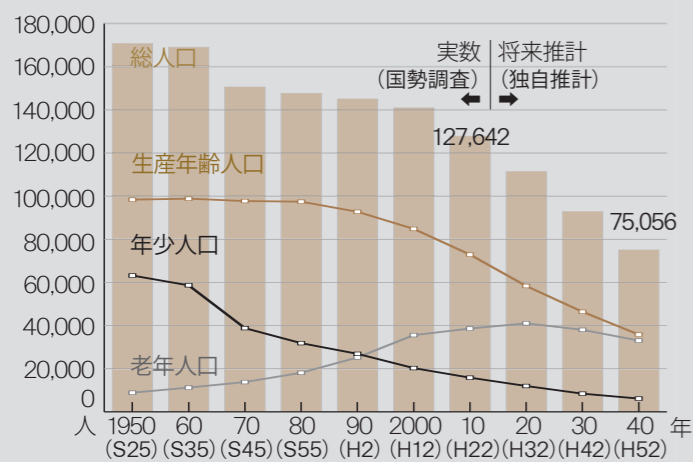


一関の未来予想図を描いた政策企画課の職員。
左から千葉敏紀課長、藤島修主幹、佐藤正幸課長補佐、松谷俊克主任主事、菊池絵理子主任主事、臨時職員の高橋真樹子さん

市の人口ピラミッド (H26.10.1の住民基本台帳)



市の総人口と年齢3区分別人口の推移



年	1950	1960	1970	1980	1990	2000	2010	2020	2030	2040
総人口	170,527	168,768	150,366	147,465	144,896	140,825	127,642	111,373	92,868	75,056
年少人口(0～14歳)	63,219	58,665	38,811	31,851	26,894	20,286	15,840	11,972	8,418	6,147
生産年齢人口(15～64歳)	98,423	98,870	97,768	97,484	92,791	84,860	72,936	58,361	46,408	35,846
老年人口(65歳以上)	8,868	11,233	13,787	18,101	25,211	35,564	38,622	41,040	38,042	33,064

*2 重要業績評価指標 (KPI: Key performance Indicator) 目標の達成度合いを計る定量的な指標のこと。目標に向かって日々の業務を進めていくにあたり「何を持って進捗とするのか」を定義するために設定する

続く中で、長期的な人口流出に歯止めをかけることは容易ではない。しかし、地域の豊かな資源を生かし、子供を産み育て、古里に愛着と誇りを持って暮らすことこそ、人口減少の抑制につながる。

そこで、一関市人口ビジョンでは将来展望として、25年後、2040年の人口を8万6千人程度確保することを掲げ、実現に向けて総合戦略で4つの基本目標と政策展開の基本的目標を掲げた。

① 市民が力を発揮できる仕

事を創出し、若者や女性が集うまち(安定した雇用を創出する/新しい人の流れをつくる) ② 社会全体で子育てを支援し、次代の担い手を応援するまち(結婚、出産の希望をかなえる/安心して子育てを楽しめる環境の形成) ③ 心豊かに安心して暮らせる、住みたい、住んでよかったまち(地域で安全に安心して暮らせる環境の整備、充実/生きがいを持ち健康に暮らせる環境づくり) ④ 未来へ引き継がれる誇りと愛着が持てるまち

(将来にわたって持続可能なまちづくり/連携と協働によるまちづくり)

戦略のこれから

戦略の期間は、2015年度から2019年度までの5年間。それぞれの施策は、重要業績評価指標(*2)で達成度を測定しながら進捗を管理する。有識者会議で毎年度検証するだけでなく、住民のアイデアや要望も取り入れながら、必要に応じて年度末に改定していく予定だ。

まち・ひと・しごと創生総合戦略とは

いま

1st Chapter 「Now」

●第1章



高校生がワークショップで、まちづくりのアイデアを出し合った

全国で高まっている人口対策への機運。今、住民、地域、行政がタッグを組んだ「オール一関」の結成が求められている。

脱・消滅可能性都市

「一関市人口ビジョン」では、出生、死亡、移動の状況が現状のまま推移すると仮定した場合、市の総人口は25年後の2040年には約7万5千人まで減少。総人口に占める高齢者の割合は、44・1%まで上昇すると推計している。

現在の人口構造は、20代から40代までの子育て世代の割合が低く、若い世代を確保することが人口減少を抑制する鍵となる。

そこで、一関が将来にわたって、活力ある地域を維持するために3つのキーワードに着目した。それが、「まち」、「ひと」、「しごと」だ。

「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を構築する。豊かで住みよい「まち」づくりには欠かせないものだ。

総合戦略には、次のようにある。① 市民一人一人が夢や希望を持ち、豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成(まち) ② 地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保(ひと) ③ 地域における魅力ある多様な就業機会の創出(しごと)。この3つを一体的に推進することで、若い世代を確保し、元気な一関を次代に引き継ぐことができるようになる。

人口流出に歯止めを

出生率の低下と転出超過が

結婚・出産・子育て、転入と転出に関するアンケート調査の結果

【結婚について】…回収数564票

- ・結婚の時期/既婚または近々結婚する人の約5割は「希望どおり」、約3割が「希望はもっと早かった」と回答。
- ・結婚に必要な条件/「安定した収入」、「結婚資金、結婚後の生活資金」の回答がいずれも半数近くを占めている。(複数回答可)
- ・未婚である理由/いずれも約3割が「理想の相手にめぐり合えないから」、「経済力がないから」と回答。(複数回答可)
- ・結婚しやすい環境とは/未婚者の約3分の1が「雇用機会の提供」と回答。(複数回答可)

【転入について】…回収数210票

- ・転入の理由/半数以上が「自身またはパートナーの仕事の都合」と回答。そのうちの約半数は「転勤」がきっかけと回答。
- ・転入前の情報源/最も多いのが「市役所が発信している情報」で半数。次が「知人・親類から」で4割。(複数回答可)
- ・一関での生活/転入者の3分の2は「満足」「どちらかといえば満足」と回答。
- ・今後も住み続けたいか/約8割が「住み続けたい」「住みやすい環境になれば住み続けたい」と回答。

【出産、子育てについて】…回収数564票

- ・理想の子供の数/既婚者等平均2.50人。未婚者等平均2.28人。
- ・出産しやすい環境とは/約半数が「経済的負担の軽減」、次いで約4割が「産休・育休制度の充実」と回答。(複数回答可)
- ・子育てしやすい環境づくりの支援/「税制や社会保障の改善」、次いで「保育所などの預け先施設の充実」「子どもの数に応じた経済的支援」で、いずれも約6割が回答。(複数回答可)

【転出について】…回収数75票

- ・転出の理由/約7割以上が「自身またはパートナーの仕事の都合」と回答。そのうちの約6割は「転勤」がきっかけと回答。
- ・本市の住みにくさ/約4割が「交通が不便」、次いで「買い物不便」と約3割が回答。(複数回答可)
- ・もう一度一関に住みたいか/転出者の約8割が「機会があればもう一度住みたい」と回答。